

発掘！江戸時代の宿場町

久喜市栗橋

栗橋宿本陣跡・栗橋宿跡



栗橋宿跡第7地点

栗橋宿跡第6地点

栗橋宿本陣跡

利根川



公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、利根川の堤防強化工事に伴い、久喜市（旧栗橋町）で栗橋宿に関連する遺跡の発掘調査を実施しています。

日光道中（街道）七番目の宿場町として栄えた栗橋宿は、利根川の治水と縁の深い宿場町です。江戸時代の初め、徳川幕府は江戸を洪水から守るため利根川の付け替え工事を行いました。その過程で元栗橋（現在の茨城県猿島郡五霞町）から栗橋に渡船場を移し、関所を設けました。宿場の整備は慶長年間（1596～1615）から開始され、順次町並みが整備されてきました。栗橋宿を縦貫する日光道中は、宿場内で長さ900mの直線道路となっており、道に沿って本陣や町屋が形成されていました。

今回は幕末から明治時代を中心とした第一面と、江戸時代中期から後期を中心とした第二面の発掘調査を行い、往時の宿場町を形成した建物の配置や、生活の様子が徐々に分かってきました。

主催 埼玉県教育委員会
共催 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
久喜市教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

栗橋宿跡第7地点

栗橋宿跡第7地点では、第一面から多くの建物跡と、区画のための杭列等が見つかりました。



短い丸太を並べて、その上に横木を置いた2号建物跡の基礎



等間隔に切石を並べた3号建物跡の基礎



縦に杭を打ち込んだ4号建物跡の基礎



全体に割石を詰めた5号建物跡の基礎

第一面

建物の基礎工事は
バラエティ豊か。



羽子板が見つかりました。



箱枕が見つかった時の様子。表面には赤い漆が塗られています。

45号土城跡

45号土城

0 10m

栗橋宿における災害の歴史

明治二年	慶応四年	文久二年	安政元年	弘化三年	文政五年	一三年	文和二年	寛政三年	天保三年	安永三年	宝暦三年	寛保二年	享保六年	承応三年	一八年	一二年	寛永元年
八六九	八六八	八六二	八五四	八四四	八二二	八一六	八〇二	七九一	七八六	七八三	七五七	七四二	七二五	七〇四	六四一	六三五	六二四
栗橋関所の廃止。	が、羽生で発生した波及。	通りの五軒余り焼失。	船戸から出火。鍛冶町から本	と記録される。「栗橋激震あり」	安政地震。「栗橋激震あり」	利根川洪水。											

：洪水 ：火災 ：地震・噴火

栗橋宿本陣跡

栗橋宿本陣跡は、大名等の宿泊所であった本陣を含む範囲です。本陣の範囲を区画した溝跡や多数の井戸跡、土壌などが見つかりました。

井戸の構造がスゴイ

305号井戸跡は下に板を敷いて基礎とし、その上に井戸枠として桶を三段重ねていました。下に敷いた板は安定性を保つための構造と考えられます。

*** 紫色の部分が江戸時代の本陣の敷地と考えられます。**



井戸枠は桶を重ねて作られていました。



上の桶を外すと、下にも桶が重ねられていました。



全ての桶を外すと、基礎が現れました。



さらに下には方形の木組みを作り、湧水点を囲っていました。



1023号土壌「かわらけ」という素焼きの皿がたくさん見つかりました。かわらけは宴会などで使い捨ての器として使われました。本陣の中で儀式や宴会に使用されたものでしょうか。



本陣と町屋を区画する溝跡です。この溝跡より北側(左の図で紫色の部分)が本陣の敷地と考えられます。



0 10m



1104号土壌 木製品や陶磁器が埋まっていた。ゴミを捨てた穴と考えられます。

江戸時代の本陣が見えてきた!



栗橋宿跡第6地点

栗橋宿跡第6地点では、現在第一面の遺構を調査中です。建物跡や溝跡が整然と並んで見つかりました。



9号土壌

家紋?が描かれた漆塗りの碗です。



9号土壌 青磁の花瓶と狛犬の人形が出土しました。

様々な形の人形が出土しています。



1号溝



12号土壌

素焼きや陶器でできた人形が出土しました。右は犬を抱いた子供の人形で、京都で作られた可能性があります。



5号建物跡 基礎の中には等間隔に石が並んでいます。

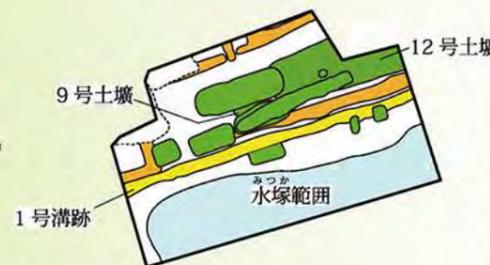


10号建物跡 基礎の中には太い横木が埋まっていた。



第一面

0 10m



1号溝跡



1号溝跡 地割の溝跡です。排水溝としての機能も兼ねていたようです。

